



福井市の学習塾「シャインアカデミ

長野県大町市の高校1年、中村京平君（15）は28日、米国コロラド州の高校に留学するため出発する。地域情報紙で松本市の語学学校が「ISC留学net」に加わったのを知った。小学生の頃から留学したかった。しかし、地方都市は留学情報が乏しく、数時間かけて、東京のあせん業者を訪ねたこともあった。

母親の幸恵さん（41）は「近いので安心感があった」と話す。親子カウンセリングのほか、留学先の学校選びなどの支援を受けた。

県・50カ所に広がった。

「ISC留学net」は、地方の学習塾などを「留学センター」と称した相談窓口にして、渡航の準備を支援する。インターネット電話で、静岡の本部にいる専従スタッフに相談もできる。留学先は英語圏が中心。留学につながったのは30人程度だが、拠点は設立1年半で31道府県・50カ所に広がった。

t」は、静岡県浜松市で36年間、留学支援をしてきた学習塾「和田塾」が地方の塾や語学学校に呼びかけ、2009年に発足した。大場規之代表は「留学が身近になるように、都市と地方の情報格差を解消したい」と話す。留学支援会社でつくる業界団体「海外留学協議会」の会員の8割は東京が本拠地で、支店があつても都市部が中心だ。

「ISC留学net」は、地方の学習

塾などをして、「留学センター」と称した相談窓口にして、渡航の準備を支援する。インターネット電話で、静岡の本部にいる専従スタッフに相談もできる。留学先は英語圏が中心。留学につながったのは30人程度だが、拠点は設立1年半で31道府県・50カ所に広がった。

若者が海外留学を目指しても、情報は東京や大阪などの都市部に集まりがち。そんな中、「誰でも留学できるような環境を作ろう」と、地方の学習塾が連携してノウハウを共有し、留学の相談窓口になるネットワークを立ち上げた。

地方から留学塾が応援



留学前に ISC松本留学センターを訪ね、入国審査での質問に答える練習をする中村君（右）=長野県松本市で

連携し情報提供 ■ 学校探しや親子カウンセリング

近年は、若者が留学をしたがらず、「内向き志向」といわれる。文部科学省によると、留学した学生は04年をピークに減っている（グラフ）。

留学生事業に長く携わる、一般財団法人「国際教育交流フォーラム」の堀江学理事長は「留学情報は大都市に集まりがちで、こうした取り組みは珍しい」と話す。ただ、「子どもの特性や家庭環境は様々で、留学先の情報とマッチングさせるのは難しい作業。これがうまくできれば、展開が期待できる」と指摘する。

（見市紀世子）